



# 第二次下野市産業振興計画

## 概要版



## 計画の背景

### 計画の目的

産業の振興は、市民生活を支える基盤であるとともに、地域の魅力を高め、活性化させる重要な役割を担っています。その方針となる本計画は、本市の特色を活かし、市民や事業者をはじめ多様な主体と連携協力して市内産業を守り・育て、新たな産業を育むことにより、地域の活性化を図ることを目的とします。

平成26年度に策定した第一次計画の計画期間（平成27年度～令和元年度）が経過し、ICT等の先端技術を活用した産業など、新たな動向を見据えた次代の産業振興のあり方や具体的な取組等を定めることを目的に計画の改訂を行います。

### 計画の位置づけ

本計画は、本市の将来像や基本的施策を定めた第二次下野市総合計画をはじめ、下野市都市計画マスタープランや第二次下野市観光振興計画等のまちづくり計画体系の一端を担い、産業振興・雇用の拡充等の目標実現に取り組む計画です。

### 計画の期間

本計画の計画期間は、令和2年度～令和6年度の5年間とします。

## 目標とする将来像

### 本市の特性と可能性

#### 豊かな地域資源

本市は、先人達が拓き培ってきた農地等の郷土の環境、歴史文化、企業や大学・病院等からなる豊かな地域資源に恵まれています。

#### 恵まれた立地条件

首都圏にあり、市内に農業・工業生産機能が集積・展開し、首都圏と東北地方を結ぶ物流幹線道路も通る恵まれた立地条件を有しています。

#### 自治医科大学・同附属病院の存在

自治医科大学・同附属病院の存在は、本市の病院・診療所が多いことや人口当たり医師数が全国のなかでも屈指であるなど、すべての市民が豊かで安全安心な“幸せ実感生活”を目指す環境が整いつつあります。

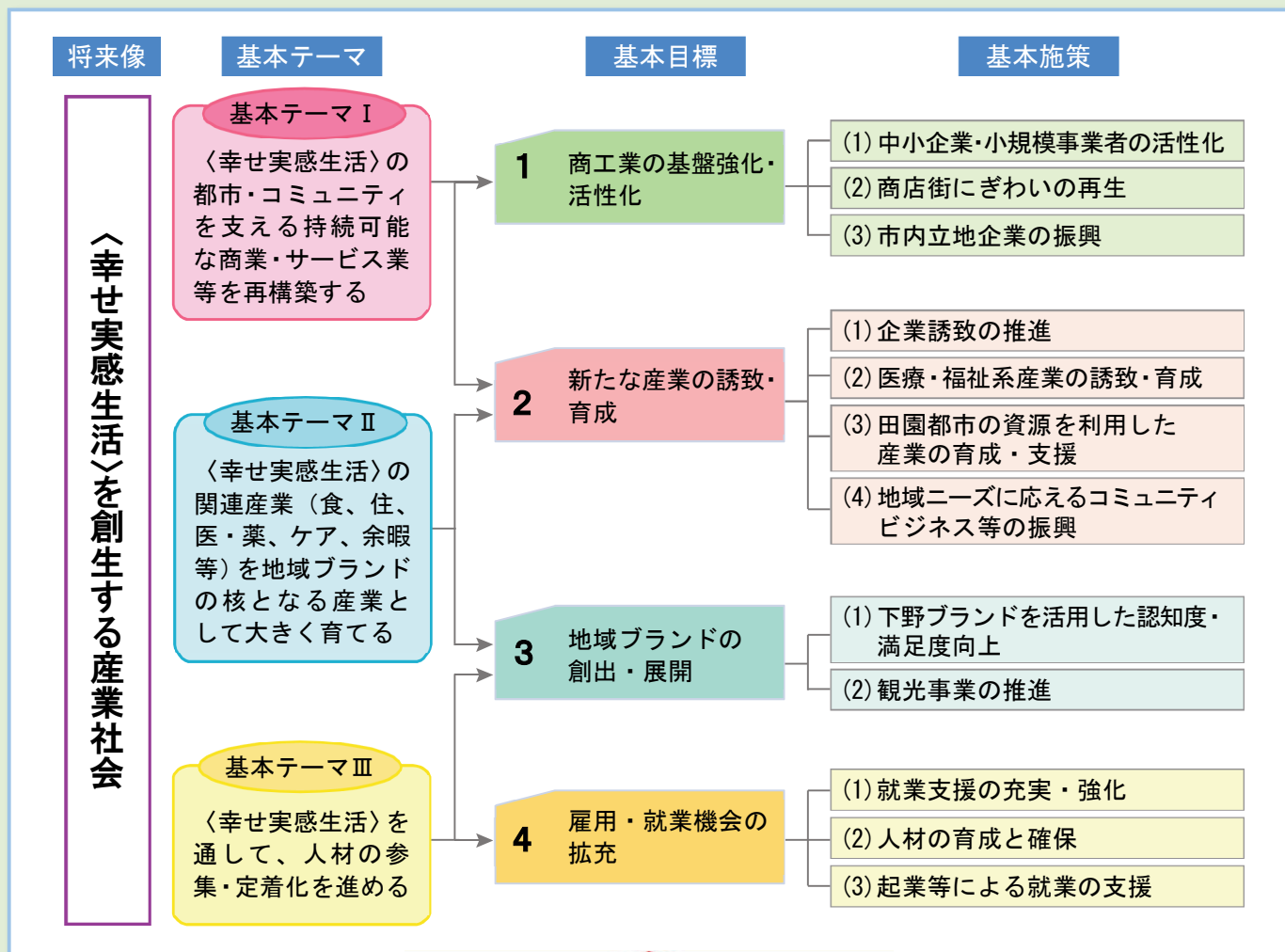
### 下野市の新しい産業社会のすがた

## 〈幸せ実感生活〉を創生する産業社会

市民一人ひとりが活力を持ち、安心して生活できる地域を形成するため、誰もが幸せを実感できる魅力ある持続可能な産業社会を目指します。

# 基本テーマと基本目標

〈幸せ実感生活〉を創生する産業社会を築いていくための基本テーマを具体化する4つの基本目標と基本施策を次に掲げます。



SDGs を意識した  
施策へ

## SDGs（持続可能な開発目標）

既存の商工業の活性化とともに、企業間の連携や新たな産業の誘致・育成による地域で人材が育ち、地域経済の発展と定住につながるまちづくりを推進します。



※第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略より



天平の花まつり



自治医科大学附属病院



薬師ヶ池

## 基本目標 1

## 商工業の基盤強化・活性化

商工業をめぐる社会経済環境は、少子高齢化、買物行動や生活スタイルの変化、ICTの進展による新たなサービスや製品・技術の進歩、製造業の海外展開など大きく変動していることから、市内商工業者においても、事業環境の変化に対応して事業内容や経営のあり方を見直し、空き店舗等の有効活用を図りながら、経営基盤の強化や活性化を図っていく必要があります。

★新規事業

### (1) 中小企業・小規模事業者の活性化

- 市内事業所の9割以上を占める中小企業・小規模事業者が需要や事業環境の変化に対応できるように、経営問題に対する相談などの拡充を進め、設備改善や資金繰り改善、新たな事業への制度融資や、国の事業等を積極的に活用して取組を支援します。
- 市内の中小企業・小規模事業者は「企業市民」であり、その存続は地域にとって重要です。そこで、下野市中小企業・小規模企業の振興に関する条例に基づき、公共調達での地元商店や中小企業・小規模事業者の活用、市民の地元消費・地元店愛用などを進めます。

#### 主な施策

- 経営相談の拡充
- 制度融資等の活用
- 公共調達に地元中小事業者を活用
- 地域内の消費活動の促進
- 商工会の活動支援
- 中小企業・小規模事業者強靱化対策の推進

### (2) 商店街にぎわいの再生

- 市街地の商店は、買物のほか、コミュニティの拠りどころとなってきましたが、少子高齢化や買物行動等の変化に伴い買い物客が減少し、経営が厳しくなり、空き店舗や空き家も増加しています。一方で、高齢者等が高齢化に伴い行動範囲が狭まり、日用品を自ら買いに行くことのできない買い物弱者も増加しつつあります。
- こうした地域社会と居住者ニーズの変化に対応して、商業や生活関連サービス業を集約するなど、コミュニティの拠点として再生を図り、誰もが快適に利用できる安全・安心な商店街環境整備に取り組めます。

#### 主な施策

- 商店街活性化の活動支援
- 買い物環境の整備
- ★ 買い物弱者対策の推進

### (3) 市内立地企業の振興

- 市内の工業団地等の立地企業を活かした諸産業の振興のため、産業間の連携強化を図り、立地企業のコストダウン・収益性の向上と、関連企業の事業領域拡大に取り組めます。
- 既存工場の魅力向上、イメージアップ等、人手不足・採用難への様々な取組を支援します。
- 立地企業の敷地等における未利用地や遊休施設等を新規企業立地などに活用し、市内生産活動の拡大と、立地企業の業績向上にも寄与する施策に取り組めます。

#### 主な施策

- 市内産業間の連携強化
- 既存企業等への支援
- 遊休化工場敷地等の有効活用を促進



下野市立地企業講演会



石橋まちなか賑わいまつり



おでかけ号

## 基本目標 2

## 新たな産業の誘致・育成

市内産業においては、人口構成の変化や価値観の多様化、飛躍的な技術革新、グローバル化やICTの進展、流通や購買行動の変化による商店街の衰退、全国的な動向では、持続可能な開発目標（SDGs）、最新技術を活かした“Society5.0”の取組、6次産業化、農業と医療・福祉の連携、コミュニティビジネスの展開など、大きな変化や新たな産業の芽が見られます。

こうした動きを踏まえた成長が見込める産業の誘致・育成、新たな受け皿となるインフラの整備、高度医療・福祉・ヘルスケア産業・情報通信業など高付加価値業種の立地が期待されます。

「第二次下野市総合計画」では、市の活力向上と魅力あるまちづくりの形成という観点から、これらの新たな産業の誘致・育成と良好な住環境の保持の両立を進めていくものとします。

### （１）企業誘致の推進

- 本市の恵まれた自然環境や優れた立地条件と、産業の種となる豊かな地域資源を活かし、高度医療、福祉、ヘルスケア産業、情報関連産業などの企業誘致を進めるとともに、新たな受け皿となる産業団地の整備や関連インフラ整備を推進します。

主な施策 ▶ ★産業団地の新設 ●企業誘致支援制度の拡充 ●企業誘致活動の拡充

### （２）医療・福祉系産業の誘致・育成

- 自治医科大学・同附属病院の協力や指導を得ながら、機器製品開発、情報システム開発、サービス開発等に取り組む医療・福祉系産業のベンチャー企業の誘致・育成を進めます。
- 市内中小企業等と自治医科大学・同附属病院及び市の協力体制づくりを進めます。

主な施策 ▶ ●医療・福祉系産業に取り組む事業者・企業の体制づくり  
●ベンチャー企業の誘致

### （３）田園都市の資源を利用した産業の育成・支援

- 本市は、田園景観、優れた眺望、緩やかな自然地形、国指定史跡や古墳、多彩な祭り・イベント、農業資源などを活用する産業が大きく育つ可能性を持っています。
- そこで、先進事例の紹介や関係機関との連携による農業体験等の新たなビジネスの育成、加工施設同士の連携や農業・商業・工業等の協力による特産品づくりを通じた6次産業の展開、それらの活動を支える担い手の地域への定住を促す取組などを進めます。

主な施策 ▶ ●6次産業の展開・推進 ●農業体験等のビジネス育成  
●空き家バンクの活用

### （４）地域ニーズに応えるコミュニティビジネス等の振興

- 家族や居住形態の変化に伴い社会的支援を必要とする人々への対応を求められています。そうした課題を新しいサービス需要と捉え、コミュニティ・カフェ、ホームヘルプサービス、デイサービス、保育サービス、学習塾、不用品交換・リサイクル、シェアハウス、コワーキングスペースなど様々なコミュニティビジネスが生まれています。
- こうしたビジネスを街中に取り込んでいくことで、商店街の賑わい再生も期待できるため、手法等の検討を進めます。

主な施策 ▶ ●コミュニティビジネス担い手の発掘・育成  
●コミュニティビジネス等創業支援

## 基本目標 3

## 地域ブランドの創出・展開

〈幸せ実感生活〉を創生する産業都市づくりにおいては、本市の「下野薬師寺」「下野国分寺・国分尼寺跡」に代表される全国に誇れる歴史・文化や優れた特産品など、数多くの魅力的な資源を活かし、地域ブランドの創出・展開＝地域ブランディングによって、地域の持つ魅力をさらに高め、『下野』の認知度を向上させていく必要があります。

そのため、これまでに展開されてきた「下野ブランド」づくりやPRの取組について、農商工の連携等により一層の拡充・普及を図り、地域ブランド・イメージの向上につなげていきます。

また、大規模イベントの開催など外国人旅行者の来日機会を的確に捉えつつ、市内の様々な資源の観光事業への活用や、近隣市町との連携による広域観光の新たな可能性を検討することにより、観光収入を得ながら、訪れた人々に本市の魅力を感じ、発信してもらうことのできる、インバウンド等の観光振興を図ります。

### (1) 下野ブランドを活用した認知度・満足度向上

■ 下野市には全国に誇れる歴史・文化的資源があり、災害も少なく農作物の生産・出荷も安定しています。下野ブランドを市内外に広く発信することで、『下野市』の知名度を高め、地域経済の発展、人的交流の拡大、地域の活性化を図ります。

主な施策 ● 認知度・満足度アップへ ● かんぴょうの消費拡大へ  
● ブランド品の競争力拡大

### (2) 観光事業の推進

■ 下野市には古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての東国を代表する史跡等が多数所在しており、このような歴史文化資源や近年新たにオープンした観光資源を融合、ネットワーク化すること、及び季節ごとのイベントを通して、魅力ある観光の創出を推進します。

■ また、大規模な国際イベント等の開催を見据えつつ、新たに創出した観光資源やルートなどをより早く情報発信することで、市民や来訪者の人的交流や経済循環などを促し、地域経済の発展、地域の活性化を図ります。

主な施策 ● 魅力ある観光の推進 ● 観光資源の創出 ● インバウンド対策



下野ブランド



下野薬師寺跡



かんぴょう祭り



コミックキャラクター(瓜田瑠梨)

## 基本目標 4

## 雇用・就業機会の拡充

立地企業アンケートで多くの企業が人材確保への対策を期待するなか、市内従業者の年齢構成は30代～40代を主体に50代以上の中高年が多く、20代以下の若者が少ない状況が続き、雇用の形態でも不安定雇用の割合が高い状況にあり、今後は、地域企業と就職希望者とのマッチングをはじめ、それぞれのニーズに合わせた就業支援や担い手確保の取組が重要になります。

一方、技術革新やグローバル競争等に伴う急激な産業の変化に加え、“Society5.0”社会を見据えた先端技術の導入やこれらを使いこなせる人材の育成、働き方改革の推進に伴う多様な働き方ができる仕組みづくりなどへの希求が高まり、人手不足や労働環境の変化を踏まえた柔軟な対応が求められています。

こうした状況を踏まえつつ、安定した雇用につながる働ける場・機会を拡充し、人材の定着や定住の促進にもつながる、就業支援の充実・強化、人材の育成と確保、起業等による就業の支援などの施策を切れ目なく進めます。

### (1) 就業支援の充実・強化

■ 地域産業の振興を持続的なものとするため、若者から高齢者まで、経営安定に必要な人材確保を図り、地域雇用を促進する取組を進め、市内企業などへの就職活動の機会や情報を提供します。

主な施策 ● 就業活動の支援 ● 高齢者の雇用、就業機会の確保 ● 若者の就労支援

### (2) 人材の育成と確保

■ 職業能力開発、職業・技能訓練機会の紹介、人材育成のための講座、教育・訓練の場の提供、誰もがやりがいを感じながら働くことができる環境づくりなどを推進します。

主な施策 ● 事業承継の支援 ● 職業能力の開発支援 ● 技術者のスキルアップ支援  
● ワークライフバランスの推進

### (3) 起業等による就業の支援

■ 近年の雇用では、派遣社員、契約社員、期間契約など不安定雇用の割合が依然として高い状況にあるため、若者が起業等による自営就業や地方での中小企業就職を目指す傾向が増えるよう、融資や仲介等による起業・就業支援に取り組めます。

主な施策 ● 起業による就業支援 ● 事業引き継ぎの支援



しもつけ創業塾



ICT講習

技能検定合格者表彰

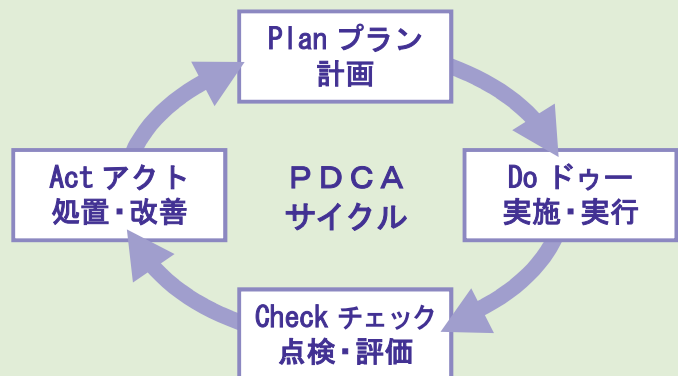


## 分野別指標

分 野		平成 30 年度実績	令和 6 年度目標値
基本目標 1 商工業の基盤 強化・活性化	制度融資新規活用件数	163 件	200 件
	消費活動促進イベントの開催	毎年開催	
	空き店舗奨励金等活用件数		年間 5 件
	花いっぱい事業実施個所数	3 か所	5 か所
	企業交流会・講演会の開催	毎年開催	
基本目標 2 新たな産業の 誘致・育成	工場誘致奨励金の活用件数		5 か年で延べ 20 件
	雇用奨励金の活用件数		年間 7 件
	食のオープンスクール	毎月開催	
	創業資金利用件数		5 か年で延べ 20 件
基本目標 3 地域ブランド の創出・展開	下野ブランド市民満足度	28%	40%
	観光協会HPアクセス数	33 万人	36 万人
基本目標 4 雇用・就業 機会の拡充	近隣市町等との共催による合同説明会	毎年開催	
	I C T 講座参加者数		5 か年で延べ 100 人
	技能検定合格者表彰者数		5 か年で延べ 135 人
	本場結城紬展示会の開催		毎年開催

## 計画の推進と点検・評価

- 本計画を着実に遂行していくために、各施策・事業の実践を担保する庁内における実施体制を整えます。
- 計画の遂行について協議する懇談会等を設け、計画の進捗状況を確認し、関係者の足並みを揃えたり、予期せぬ問題に対処するなど、計画の円滑な遂行を図ります。
- 計画の着実な遂行と成果発現のため、PDCAサイクルの観点から、「計画の定期的な点検・評価」、「個別計画の達成度に係る計数管理と要因分析の実施」、「事後の満足度調査（市民や事業者が多く関係する場合）」による点検・評価を行います。



## 第二次下野市産業振興計画《概要版》

令和2年3月発行 下野市産業振興部商工観光課

〒329-0492 栃木県下野市笹原26番地

電話 : 0285-32-8907

e-mail: syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp